

所長の模型部屋（第21回）

皆さんこんにちは。ところで皆さんは初めてレジンキットを作ったのはいつですか？

私は平成元年の20歳頃に、模型仲間の先輩に吉祥寺の模型屋に連れて行ってもらい、そこでアキュリットアーマー社の「BMP-1（ロシア軍の装甲戦闘車）」を購入したのが最初でした。

この頃のレジンキットは気泡が多く、作るのに苦労しました。そして値段が高い！1万5千円以上するんですもん。でも、先輩に言わせれば、「たくさんの手間と材料費、各種資料を考えるとその値段は安い物だ！」ん～確かにそうかも・・・そして数年後、ピットロード社から陸自の新鋭装備がレジンキットで発売されました。それが・・・

87式偵察警戒車です



このキットが出た時、私は北海道千歳市の第71戦車連隊勤務だったのですが、市内の模型店のショーケース内に見つけ、その値段「1万3千円」を見るや店主に「今、お金をおろしてくるからとっといてね！」と銀行へ猛ダッシュ！晴れて購入できたのです。その後も作るのがもったいなく、隊内の居室に箱のまま飾っていたら、ルームメイトの先輩が「え、これ模型？なに？いちまんさんぜんえ～ん？バカじゃないのお前！」と言われてしまいました。いいんです・・・理解されなくても。皆さんはわかりますよね。このキットの価値を。

このキットは、連隊の偵察小隊に最初に配備されたものを制作しました。整備工場へ何回も見に行きながら作りました。



タイヤはホワイトメタル、車体と砲塔はレジンのムク・・・とにかく重いキットです。制作途中で足回りの部品がタイヤとともに落下することが幾度もありました。エッチングパーツなど無く、各種ラックは真鍮線で自作、フェンダーは0.3mmプラ版で作りました。やはり強度が問題でしたね。今はプラキットでエッチングパーツ付きで販売されているので、あまり苦勞はないのかもしれません。



当時はまだ技量が無かったので、出来映えはイマイチです。後部ラックなんて今にも外れそうです。参考になるかわかりませんが見てください。



車体はダークグリーンとフィールドグレイの混色と、フラットアースの2色迷彩です。当時はまだ自衛隊色が発売されていなかったなので、整備工場に行っては色調を確認しながら作りました。泥はベビーパウダーとアクリルのカーキとかダークイエローとかの混色です。確か、タミヤニュースか何かにこの技法が掲載されていたんですよ。先述の同室の先輩、「何でお前独身なのにベビーパウダーなんかもってんの？え、泥？（理解不能）」この車体、60mm発煙弾発射機を搭載しているんですけど、すぐに76mm発煙弾発射機に換装されてしまったんですよ。陸自の装備品でも装輪装甲戦闘車的な物はこの車体が初めてだったので米軍との共同訓練でも、米兵が珍しがっていましたね。



ハッチ周辺やフェンダーの泥の付き方は、実車を参考にして付着させました。乾いた泥と湿った泥の色の違いを出したかったのですが、思った感じに出来ませんでした。車体側面について泥は、車内に乗り込む前に、乗員が足を車体にトントンと蹴り、靴底の泥を落とすのでこのように付着します。

戦車でもそうなのですが、砲塔を横に向けると格好いいですね。私の好きなアングルです。

私は平成11年に第73戦車連隊の偵察小隊長になり、この車両に乗って訓練を重ねました。第7師団偵察部隊競技会で、他部隊の偵察隊は慎重に前進する中、私は果敢に敵陣に突っ込み、対抗部隊の74式戦車の前で路外にスタックしてしまい、105mm砲の餌食となった苦い思い出があります。今でもたまたま夢に出ます。





夏の小隊訓練で、偵察警戒車と偵察オートバイの梯隊を組んで北海道の道路を走っていると、ツーリング中のライダー達が手を挙げて挨拶してくれました。こんな物々しい車とオートバイの取り合わせなんてなかなか珍しい光景ですね。夏休み中の子供達にも大人気でした。



87式偵察警戒車の前身である82式指揮通信車と並べてみました。この車体でたくさんのファミリー化された装備品が出るかなと思ったのですが、化学防護車を最後に出ませんでしたね。車高が高いため操縦しやすかったですね。エンジンも民間のエンジンと同系列の物を使用していて故障が少なく信頼性が高かったです。さて、次回は、当然・・・

82式指揮通信車です。またおつきあいくださいね。